茨木市立　彩都西中学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成３０年１０月作成

1 ３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	彩都西中学校ブロックでの連携組織を確立させる。	「見合う・知り合う」 ○彩都西中学校で合同授業研 12月6日（水）１年 ○小小交流（彩都カーニバル、運動会の見学、連水連運に向けて） ○小中連携（体験授業・部活見学） ○ブロック連携会議（月１） ○小学校への出前授業 ○他校の校内研修への参加	「目標と共通実践の決定」 ○清溪小学校で合同授業研 ○小小交流 ○小中連携 ○ブロック連携会議（月１） ○小学校への出前授業 ○合同研修会 ○連携担当者以外の担当者会を行う ○他校の校内研修への参加	「実践より、成果と課題」 ○彩都西小で公開合同授業研 ○小小交流 ○小中連携 ○ブロック連携会議（月１） ○小学校への出前授業 ○他校の校内研修への参加 ○各担当者会議 ○合同研修会 ○9 年間のカリキュラムの見直し。実践後の成果と課題。
確かな学力の育成	・すべての生徒が主体的に参加し、つながる授業づくりをめざす。 ・正答率２０％未満の生徒を減らす。	①毎朝10分間の読書タイム ②定期テスト前の放課後学習会 ③夏・冬・春休み明けの宿題やりきろう会 ④夏・冬休み中の学習会 ⑤再テストや個別補充授業 ⑥TT、分割、少人数授業の実施 ⑦ペアワーク、グループワークを取り入れた授業作り ⑧校内研究授業・公開授業 ⑨授業交流月間（6,11,2 月） ⑩教員の校内研修会 ⑪学習サポーターの活用	○①～⑪の継続 ○H29 年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し	○①～⑪の継続 ○H30 年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し
豊かな人間性を育む	互いの違いを認め合い、つながり関わりあえる力を育てる。	①行事などを通して、つながり力を育成する ②委員会と生徒会でタイアップしたあいさつ運動の取組み ③自分力を育成し、互いの違いを認め合えるような、道徳・学活・総合授業の実践 ④教員の校内研修会	○①～④の継続 ○H29 年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し ○道徳授業および評価の確立	○①～④の継続 ○H30 年度の結果を踏まえた計画の評価及び見直し ○新教科書を用いての授業の開始
健康・体力の増進	柔軟性、瞬発力を強化し、総合的な体力向上を目指す。	○補強運動・ストレッチなどの準備運動の見直し ○昼休みのグラウンド解放 ○授業外での補習活動 ○各学年による球技大会 ○４月実施の体力テストの結果を分析し、カリキュラムの検討	○補強運動・ストレッチなどの準備運動の実施 ○昼休みのグラウンド解放 ○授業外での補習活動 ○各学年による球技大会 ○カリキュラムの実施・検討	○補強運動・ストレッチなどの準備運動の実施・検討 ○昼休みのグラウンド解放 ○授業外での補習活動 ○各学年による球技大会 ○カリキュラムの実施・検討と見直しと追加作成
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A
（領域ごと）
① 話すこと･聞くこと
良好な結果であった。
② 書くこと
良好な結果であった。
③ 読むこと
良好な結果であった。
④ 言語事項
良好な結果であった。

（問題形式）
① 選択式
良好な結果であった。
② 短答式
良好な結果であった。
③ 記述式
該当設問なし。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問【8二3】
・もっとも正答率の低かった設問【8四2】
・もっとも無解答率の高かった設問【8一3】
・もっとも無解答率の低かった設問
【1一、2一、3一、3二、4一、4二、5一、5二、6一、7一、7二、8三ア、8三イ、8三ウ、8三オ、8三カ 8三キ、8四1、8五、8六3】

国語B
（領域ごと）
① 話すこと･聞くこと
概ね良好な結果であった。
② 書くこと
良好な結果であった。
③ 読むこと
良好な結果であった。
④ 言語事項
大変良好な結果であった。

（問題形式）
① 選択式
良好な結果であった。
② 短答式
該当設問なし。
③ 記述式
良好な結果であった。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問【2二】
・もっとも正答率の低かった設問【1三】
・もっとも無解答率の高かった設問【3三】
・もっとも無解答率の低かった設問
【1一、2一、2三、3一】

分析

大阪府や全国データと比べると、国語Ａ、国語Ｂともに正答率は平均を上回り、各領域の区分で見ても、良好な結果がみられる。昨年度の分析において「読むこと」に関する正答率の減少が挙げられていたが、国語Ａ・国語Ｂとも、正答率の全国平均との差の増加がみられる。「書くこと」に関しては、〝語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う〞、〝目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書く〞、〝目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く〞といった目的に応じて書く設問の正答率が低い傾向にあるので、自分の持っている知識をどのように生かすのかを踏まえた「書くこと」の指導も継続していく必要がある。

○●数学●○

数学A
（領域ごと）
① 数と式
大変良好な結果であった。
② 図形
良好な結果であった。
③ 関数
大変良好な結果であった。
④ 資料の活用
大変良好な結果であった。

（問題形式）
① 選択式
大変良好な結果であった。
② 短答式
大変良好な結果であった。
③ 記述式
該当設問なし。

（無解答率）
概ね良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問【1(1)】
・もっとも正答率の低かった設問【12】
・もっとも無解答率の高かった設問【1(2)、2(4)、11(1)】
・もっとも無解答率の低かった設問
【1(1)、1(3)、1(4)、2(2)、3(4)、4(1)、4(2)、5(3)、5(4)、6(1)、6(2)、7(1)、7(2)、8、9(3)、10、11(2)、12、13、14(1)】

数学B
（領域ごと）
① 数と式
大変良好な結果であった。
② 図形
大変良好な結果であった。
③ 関数
大変良好な結果であった。
④ 資料の活用
大変良好な結果であった。

（問題形式）
① 選択式
大変良好な結果であった。
② 短答式
大変良好な結果であった。
③ 記述式
大変良好な結果であった。

（無解答率）
良好な結果であった。

（その他）
・もっとも正答率の高かった設問【2(1)】
・もっとも正答率の低かった設問【3(3)】
・もっとも無解答率の高かった設問【3(3)】
・もっとも無解答率の低かった設問
【3(1)、4(1)】

分析

昨年同様、数学Ａ・数学Ｂともに全国平均に比べ無解答率が低かった。また、平均正答率は全国データと比べて高く、特に数学Ｂは全領域で、全国平均を大きく上回っている。基本的な計算処理を行う力、グラフや図形を読み取る力は全体的に高いが、昨年度と同様、関数を説明する力や、資料の活用などの言葉の意味をきっちりと理解できていないのが課題である。昨年に引き続き、ただ計算し問題を解くだけでなく、言葉の意味を正しく理解し説明できる力をつけていく必要がある。

○●理科●○

（領域ごと）

① 物理的領域　　大変良好な結果であった

② 化学的領域　　大変良好な結果であった

③ 生物的領域　　良好な結果であった

④ 地学的領域　　良好な結果であった

（問題形式）

① 選択式　　良好な結果であった

② 短答式　　大変良好な結果であった

③ 記述式　　大変良好な結果であった

（無解答率）　　概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問【6(3)】
・もっとも正答率の低かった設問【9(2)】
・もっとも無解答率の高かった設問【9(2)】
・もっとも無解答率の低かった設問【1(1)、1(2)、2(1)、3(1)、3(2)、5(2)、6(1)、7(1)、7(2)、8(1)】

分析

物理的領域・化学的領域の２領域において、全国平均から比べて特に上回っている。しかし、〝観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる〞などの知識の活用を要する設問で、正答率がやや低い傾向にあるので、どのように知識・技能を活用する力を伸ばしていくのかを考える必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

○平均正答率は、昨年度に比べ上昇はしているものの、ほぼ横ばいである。また、大阪府や全国平均を上回っている。しかし、区分別にみていくと、大阪府や全国平均に近づいている区分もある。
○無解答率は、昨年度は 28 年度に比べ、1.07 ポイントの上昇がみられたが、今年度は昨年度にくらべ 1.26 ポイント減少がみられる。この変動の原因を分析し、今後の手立てを考えていく必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

○左記の無解答率ポイント数変化に伴い、学力高位層と低位層の割合が昨年度に比べ変化している。つまり、高位層の割合が上昇し、低位層の割合が減少している。
○全国平均と比較すると、高位層は上回り、低位層は下回ってはいる。しかし、低位層の割合に大きな変化はないもの、変化の原因を分析し、さらなる減少の手立てを明確にする必要がある。

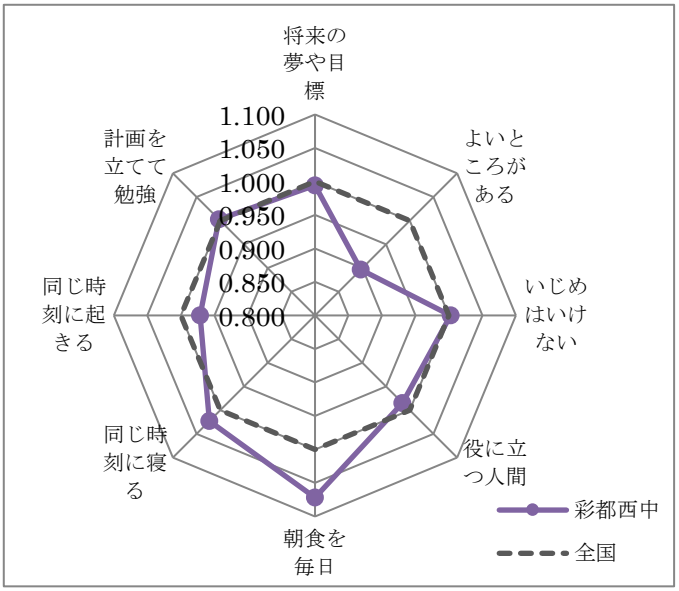
○●取組み●○

学力向上に関する取組み

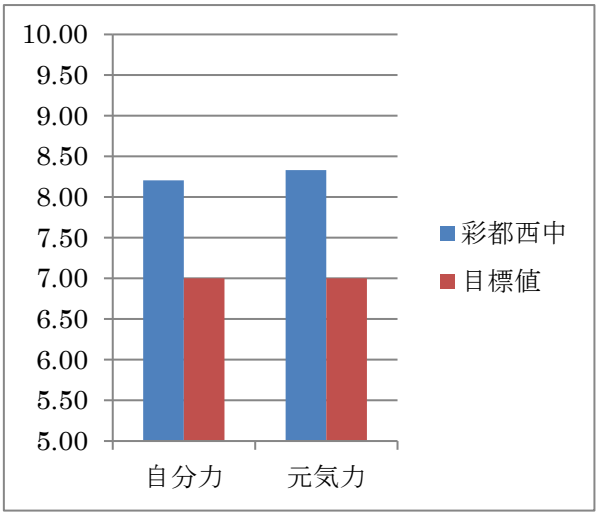
○毎朝 10 分間の読書タイムの実施
○定期テスト前の放課後学習会の実施
○夏･冬･春休みの宿題やりきろう会の実施
○夏･冬休み中の学習会(学年・教科)の実施
○授業での定期的な小テストの実施(５教科)
　漢字テスト，聞き取りテスト(国語科)　　単元ごとの確認テスト(数学科)
　単語テスト，レッスンごとの小テスト，表現活動のテスト(英語科)
　各単元ごとの重要語句の小テスト(理科･社会科)
○TT，分割授業，少人数授業の実施(英語科・数学科)
○ICT 機器を積極的に活用した授業づくり
○積極的にペアワーク・グループワークを取り入れた授業づくり
○校内研究授業，公開授業の実施
○彩都西中学校区での小中連携
　彩都西中ブロック 3 校合同授業研の実施(11 月)
○教員授業交流月間(6 月・11 月)の取り組み
○教員の校内研修会の実施（8 月･10 月･11 月）
○学習サポーターの活用

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は８項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

【自分力】

特に「よいところがある」という項目において、全国平均よりも大きく下回る結果となった。

【元気力】

全国平均とほぼ同じ結果となった。「朝食を毎日食べる」という項目においては、全国平均より高かった。

今後の取組み

【ゆめ力】

キャリア教育に関する授業や職業体験などを通して、夢に向かって挑戦することの大切さを学ばせる。また、達成感を感じる体験を、日常生活における活動を通して、増やしていきたい。

【自分力】

いいとこ探しやいじめに関する取組みは生徒会を中心に活発に行っている。今後もこの取組みを継続させ、さらに自己肯定感を高めることができるような取り組みを学校全体で考えていく必要がある。また、「役に立つ人間」になるとはどのようなことかを、社会貢献の観点から道徳などの授業において理解させる取り組みを継続して行う必要がある。

【元気力】

規則正しく生活をするように指導を継続していく。「同じ時刻に寝ている」かもしれないが、時間が遅いことも多々あるように見受けられるので、その場合は就寝時間をはやめる必要があることを指導していく。
また「朝食を毎日食べる」に関しては、全国平均に比べ上回っているので、栄養教諭を中心として継続して食育を進めていく。

【つながり力】

学力向上の取組みを通して、困っている人を助けることや様々な行事を通して、みんなで協力していくことを学ばせる。

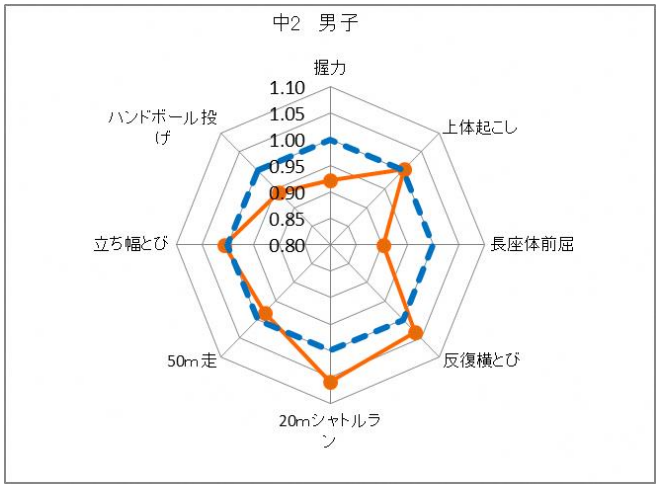
【学び力】

「計画を立てて勉強」に関しては、定期テストの際に、計画表や学習の記録を書く取り組みを継続していく。

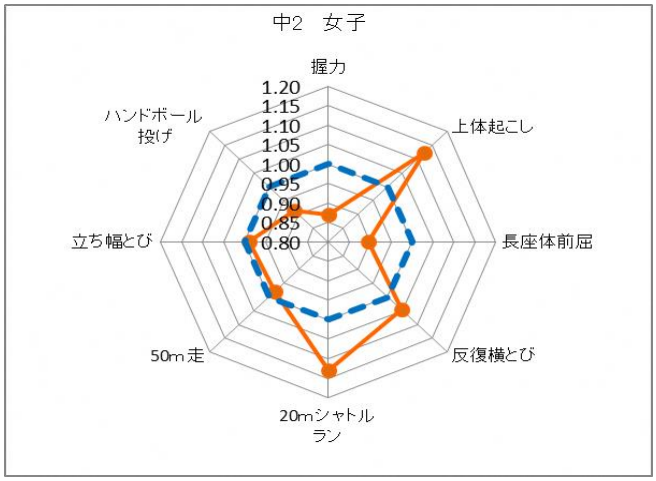
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

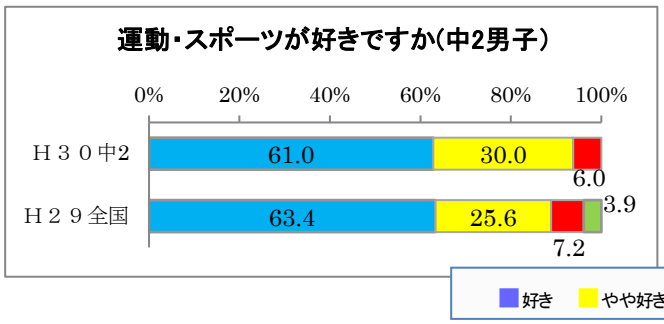
○●体力●○

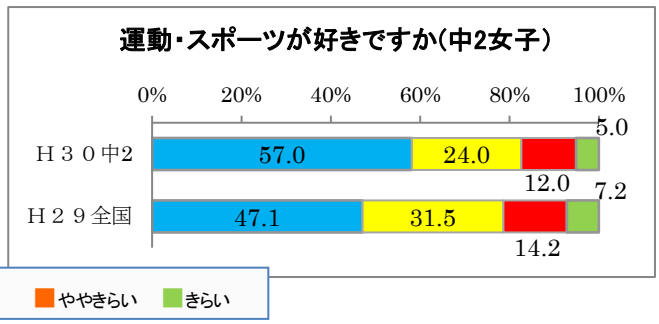
男子（中2）



女子（中2）







分析

【男子】

体力テスト、「握力」「ハンドボール投げ」「長座体前屈」は低い結果となった。しかし、「20m シャトルラン」や、「反復横とび」については全国平均を上回っている。これは部活等によって向上したと思われる。基礎体力の中で、「筋力」「柔軟性」が低いため、身につけさせる必要がある。授業の中でさらに有効な柔軟等を考えていきたい。

【女子】

体力テスト「握力」「長座体前屈」「ハンドボール投げ」は低い結果となった。しかし、「反復横跳び」「２０ｍシャトルラン」については全国平均を上回った。男子と同じく、「筋力」「柔軟性」が低いために身につけさせる必要があり、継続的に力をつけさせる計画を立てていきたい。

取組み

【男子】

現在、準備運動の中に補強運動として《腹筋》《背筋》《腕立て伏せ》《逆立ち》や種目により、適した運動を取り入れている。(ハードルの授業では股関節のトレーニングや柔道の授業では畳の上でブリッジや三点倒立など)回数を増やすことや、トレーニングの種目のバリエーションを増やすことにより、全身の筋力を強化する。この補強運動は、いかに意欲的に活動させるかが極めて重要であるため、ペア活動を積極的に取り入れる。特に柔軟に関しては今行っていることだけでなく新たな柔軟を考えていく。また、部活動や家庭でも取り組むことができるよう、トレーニングの効果や鍛えている部位、正しいフォームを定着させ、運動習慣を改善する。

【女子】

準備運動の中で男子同様、補強運動として、《腹筋》《背筋》《腕立て伏せ》に加え、柔軟性を高めるために《前屈》《開脚》《馬跳び》を行っている。今後、補強運動のバリエーションを増やすことで、筋力をより高めて行くことが重要である。また、今年度は授業の最初に縄跳びを取り入れ全身のバランス感覚も向上させる予定。